

留学生のための

考えを伝え合う プレゼンテーション

Skills for Exchanging Thoughts in Japanese Presentations



中級後半～上級
日本語学習者向け

仁科浩美

NISHINA Hiromi

口頭発表から質疑応答まで
スキルを身につける3つのステップ

- I 解説 理解する
- II タスク 考える・話し合う・発表する
- III 日本語表現 すぐに使える表現を覚える

発表例動画
WEB配信

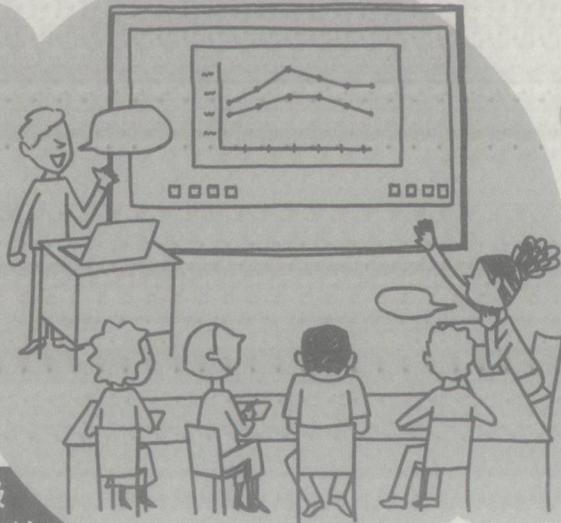


くろしお出版

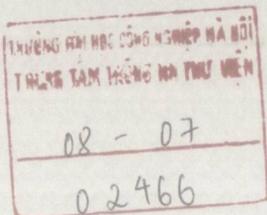
留学生のための

考えを伝え合う プレゼンテーション

Skills for Exchanging Thoughts in Japanese Presentations



中級後半～上級
日本語学習者向け



仁科浩美

NISHINA Hiromi



くろしお出版

はじめに

本書は、外国人留学生が研究に関する報告や発表を行う際に必要となる、基礎的な知識や考え方、日本語表現を学ぶために作成したものです。中級後半から上級レベルの日本語学習者を主な対象としています。プレゼンテーションに関する書物やインターネットによる情報は、世の中に溢れている時代ですが、外国人留学生が日本語で研究について発表することを扱った教材はまだ十分に提供されているとは言えません。本書の特色として、発表後の質疑応答にも丁寧に触れ、発表例の動画を取り入れる等、対話重視の姿勢を学べるような構成にしました。

今日、自分の考えを説明したり、何かを提案したりするとき、話して伝える「プレゼンテーション」という方法は必要不可欠なものになっています。それは、大学の中だけのことではなく、大学卒業後の職場などにおいても同様であり、あらゆる場面で求められる伝達手段となっています。

発表者がプレゼンテーションを行っている間、聞き手はその話を耳から聞き、スライドを目で見て、発表者と意思の疎通を図っています。発表者は、聞き手と向き合いながら、相手の耳と目を通し、自分が伝えたいことが正確に伝わるようにすることが大切です。

留学生の皆さんにとって、外国語である日本語を使い、専門に関することを人前で話すのは、非常に緊張することでしょう。しかし、会場にいる聞き手に自分が調べたことや研究した結果を理解してもらい、内容がもっと良くなるように、意見を交換したり、アドバイスがもらえたりしたら、うれしいですね。そのような有意義な時間になるように、日本語でのプレゼンテーションに関する基本的な構成やよく使われる日本語表現、相手に配慮した態度や話し方を学びましょう。

教材作成にあたっては、数年にわたって実際に学部や大学院で行われた研究発表会での発表を分析したり、発表した学生や指導する教員にインタビュー調査を行い、取り上げる内容を検討しました。作成した教材は、複数の他大学の日本語の授業でも試用をお願いし、改善を続けました。ご協力くださった先生方、学生の皆様に御礼を申し上げます。特に、宇都宮大学の鎌田美千子先生には教材の企画の段階から貴重な助言を数多くいただきました。また、動画の作成にあたっては、山形大学工学部の教員および学生の皆さんに多大なるご理解・ご協力をいただきました。お一人ずつお名前を出すことは控えますが、皆さまに心から感謝の意を表します。そして、出版にあたり、終始ご尽力くださいましたくろしお出版の市川麻里子さん、藪本祐子さんに深く感謝申し上げます。

本書が、これから大学でプレゼンテーションを行おうとする皆さんのお役に立てれば幸いです。

2020年7月

仁科浩美

本書の一部は、JSPS 科研費 26370585 「口頭発表時における質疑応答コミュニケーション能力を高めるための教育方法の開発」(平成 26 年度～平成 29 年度、研究代表者：仁科浩美) の助成を受けた成果をもとにしたものです。

目次

はじめに	1	この本をお使いになる方へ	4
第①課	プレゼンテーションとは		6
	1. 「発表」と「プレゼンテーション」	2. 大学で行う発表の種類	
	3. 発表の3つのポイント		
第②課	学科紹介・研究紹介 (1)	発表までのプロセスと構成を理解する	13
	1. 発表を行うまでのプロセス	2. 発表の構成	
第③課	学科紹介・研究紹介 (2)	発表し、コメントし合う	23
	1. 発表者として、発表を行い、コメントをもらう		
	2. 聞き手として、コメントをする		
	Note 1	緊張とどう向き合う? ……27	
第④課	研究発表 (1)	序論	28
	1. 発表の導入で話すこと	2. 研究発表の場合	
	Note 2	発表で話す文の種類: 3つの役割 ……34	
第⑤課	研究発表 (2)	本論—研究方法—	35
	1. 研究の方法を説明する		
	Note 3	調査や実験項目を述べる時 文から名詞句への変換 ……42	
第⑥課	研究発表 (3)	本論—データが1つの場合の結果および考察—	43
	1. 得られた結果の提示	2. 考察: 結果に対する解釈や見解の説明	
	Note 4	図表を説明するときによく用いられる表現 ……52	
第⑦課	研究発表 (4)	本論—データが複数の場合の結果および考察—	53
	1. 複数の調査や実験から構成される研究について説明する		
	2. 複数の結果から結論を導き出す意味		
第⑧課	研究発表 (5)	結論—全体のまとめ—	64
	1. 発表のまとめ	2. 反省点と今後の課題	3. 聞き手への感謝
	Note 5	時間の調整 ……71	

第⑨課 発表スライド (1) 簡潔に示すための日本語の工夫 72

1. スライド資料
2. 文体
3. 箇条書きで見やすく
4. スライドでよく使われる表現

第⑩課 発表スライド (2) 情報の示し方 78

1. 発表資料作成のツールおよびスライドのデザイン
2. 1枚のスライドに入れる情報
3. 項目の関係
4. スライドのレイアウト
5. 文字の大きさとフォント
6. 色使い
7. アニメーション
8. 絵や写真の使用と出典の表示
9. 参考文献リスト
10. スライド番号

第⑪課 質疑応答 (1) 質問やコメントを受ける 86

1. 質疑応答の目的と意義
2. 質問を受ける心構えと準備
3. 質疑応答の流れ
4. 挙手する人の目的と丁寧度
5. 質問とコメント
6. 独特な前置き表現

Note 6 実験系の発表における質問……92

第⑫課 質疑応答 (2) 回答する 93

1. 回答のポイント
2. 質問を受けた際の状況
3. 状況に応じた回答

Note 7 留学生が特に気をつけたいこと……100

第⑬課 質疑応答 (3) 質問者に誤解や解釈のずれがあると感じたとき 102

1. 質問者との対話に必要な要素
2. 対人関係(上下関係や親しさなど)への配慮で考慮すべきこと
3. 質問者に対する基本的な姿勢
4. 対人関係に配慮した、誤解や解釈のずれへの対応

第⑭課 ポスター発表 109

1. 口頭発表とポスター発表
2. ポスター作成の際に気をつけること
3. ポスター発表の際に気をつけること

第⑮課 発表の実践と振り返り 113

1. 発表前の練習
2. 話し方
3. 非言語コミュニケーション
4. 発表を振り返る

付録 研究発表例 118

この本をお使いになる方へ

●全体の構成

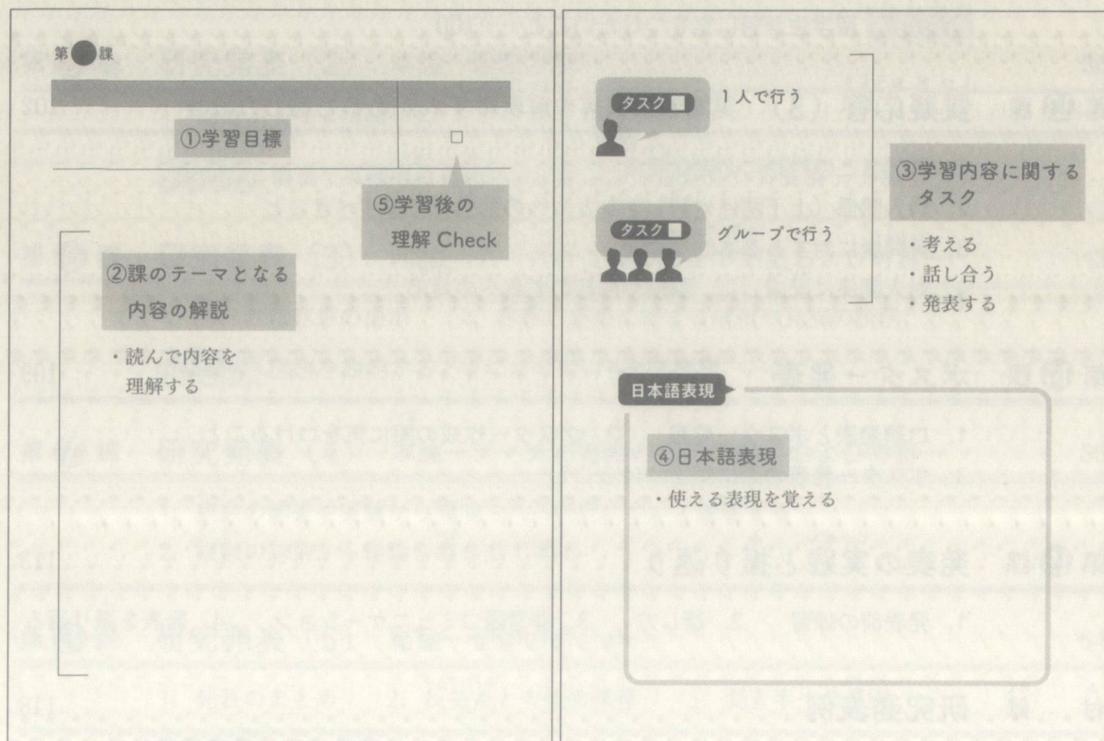
本書は、15 課から構成されています。大きくは、以下のように5つの内容に分けることができます。

- I プレゼンテーションに関するウォーミングアップ (第1課～第3課)
- II 研究発表 (第4課～第8課および第14課)
- III 発表スライド (第9課～第10課)
- IV 質疑応答 (第11課～第13課)
- V 発表の実践と振り返り (第15課)

このほかに、実際の研究発表をもとにした発表の一例を付録として掲載しています。

●課の構成

1つの課は、内容解説(解説を読んで理解する部分)と、実践タスク(考えたり、話し合ったり、発表する部分)、日本語表現(使える表現を覚える部分)の3つに分かれます。



※本書では、原則として日本語能力試験 N2 レベル相当以上の漢字にふりがなをつけました。

①学習目標

その課で何を学習するかを理解します。学習する項目を事前に理解しておきましょう。

②課のテーマとなる内容の解説

学習する内容についての解説を読みます。授業に出席する前に、読んでおくとその日の学習内容がわかりやすくなります。わからないところがあったら、授業のときに、積極的に質問しましょう。

③学習内容に関するタスク

②で学んだことを具体的に考えたり、話し合ったり、実際に発表したりします。自分1人で行う「個人タスク」と、クラスメートと行う「グループタスク」があります。自分と異なる意見に耳を傾けたり、成果物を見せ合い、他の人から自分にはない良い点を学びましょう。他の人と意見を交換する活動を通して、コミュニケーション能力を高めることも、この本の大きな目的の1つです。

④日本語表現

発表の際によく用いられる日本語表現を学習します。③のタスクを行った後、④で使える表現を覚える方法と、④を学習してから③を行う方法があります。

⑤学習後の理解 Check

この課の内容が理解できたかどうか、自分で振り返り、確認します。

・Note：発表を行うのに知っておくと役に立つ情報を7つ掲載してあります。

●本書のWEB サイト

次のアドレスから①②のデータを配信していますのでお使いください。

※一部、本書紙面と動画音声・字幕が異なる部分があります。
その場合は、本書の方を参考にして下さい。

https://www.9640.jp/books_842/



①   発表例の動画教材があることを示しています。実際の発表に向けて参考にしましょう。

②タスク資料 第10課タスク1(2)(p.85)のスライド作成の際に使える図を用意しました。

●別冊：解答例

「タスク」の解答例を示しています。あくまで「例」であり、解答は1つとは限りません。

第1課 プレゼンテーションとは

学習目標	→ 学習後に Check
「発表」と「プレゼンテーション」の用語の使い方を理解する。	<input type="checkbox"/>
アカデミック・プレゼンテーションの種類や特徴を理解する。	<input type="checkbox"/>

1. 「発表」と「プレゼンテーション」

自分が研究した内容を他の人に知ってもらうために発表を行います。発表には2つの方法があります。1つは、論文やレポートに書いて伝える方法、もう1つは、ゼミや研究会などで話して伝える方法です。どちらも「発表する」という言葉を使って、「～について論文に発表する」「～について研究会で発表する」のように表すことができます。本書では、後者の、話すことにより考えを伝える「発表」について扱います。そして、公式の学会や研究会などで発表する前段階として、まずは、大学内で発表するために身につけるべきことを取り上げます。

発表の際に、1つ気をつけたいことがあります。それは、単に調べたことを一方的に話すのでは不十分だということです。特定のテーマについて他の人の前で説明し伝えることを「プレゼンテーション presentation」(略してプレゼン)と呼びます。「プレゼンテーション」は、英語では“give a presentation”、“deliver a presentation”、“make a presentation”などと表現され、“give”や“deliver”が示すように、発表する側が聞き手に何かを^{あた}与える、もたらすといった意味があります。「発表」を行うときにも、聞き手に何かを提供する^{ていきょう}という考えが重要で、聞き手のことを考えながら情報を伝えることが大切です。

一般的に何かを紹介したり披露したり、企画を提示し、説明するような場合には、「プレゼン」の語が使用され、学会や研究会など、学術的な場面では「発表」の語が使用される傾向があります。本書では「発表」を用いますが、聞き手を意識し、何かを伝える気持ちを大切にすることは「プレゼン」と同じです。